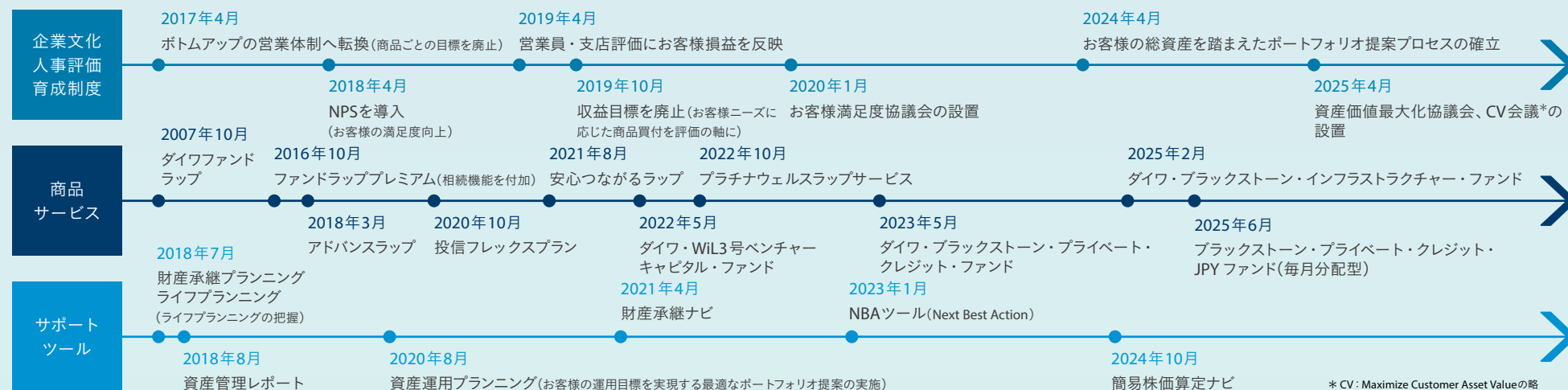


お客様満足度向上を中心に据えた営業改革

大和証券グループでは、お客様が抱える課題や不安に対し、従来以上に深く向き合うために、資産管理型ビジネスモデルへの転換を進めています。お客様は、有価証券だけでなく、現金や不動産など多様な資産をお持ちであり、資産運用に加えて、資産保全や事業承継といった点にも高い関心をお持ちです。こうした背景から、総資産全体を見据えた運用マネジメントが求められる時代となっています。にもかかわらず、従来の有価証券の売買を中心としたフロー収益型の営業スタイルでは、そうしたお客様の課題や不安に十分に向き合えていなかったという反省があります。だからこそ私たちは今、営業のあり方を見直す抜本的な改革として、資産管理型ビジネスモデルへの転換を、不退転の決意で推し進めています。



中期経営計画“Passion for the Best” 2026の概要(2024年4月に策定)

グループ経営基本方針			会社	WM	AM	GM&IB
お客様の資産価値最大化						
グループ戦略骨子						
1	お客様へ提供する付加価値の追求	業績	経常利益	2,400億円以上	●	
2	アセットマネジメントビジネスの高度化とビジネスモデル変革		ROE	10%程度	●	
3	非連続な成長戦略の推進(外部連携・M&A・成長投資)	お客様資産	ベース利益*1	1,500億円	●	●
4	経営資源のリアロケーションと管理高度化		預り資産*2	120兆円	●	●
5	デジタル・イノベーションの追求	デジタル	ストック関連資産*3	13.6兆円	●	
			AM部門AUM*4	44兆円	●	
		サステナビリティ	デジタル案件価値創出件数*5	10件	●	
			デジタル案件トライアル件数*6	50件	●	
			SDGs関連債リーグテーブル	2位以内		●
			エンゲージメントサーベイスコア	80%以上	●	
			自社の温室効果ガス排出量*7	2030年度 ネットゼロ	●	
			投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量*7	2030年度 186~255 g-CO ₂ /kWh	●	

*1 ベース利益は、WM+証券AM+不動産AMの経常利益額合計。このうちWMは、旧リテール、大和ネクスト銀行、大和コネクテッド証券、Fintertechの経常利益の単純合算 *2 預り資産残高は、大和証券の預り資産残高 *3 スtock関連資産残高は、投信、ファンドラップ、外貨預金 *4 AM部門AUMは大和アセットマネジメント、大和ファンド・コンサルティング、大和リアル・エステート・アセット・マネジメント、サムティ・レジデンシャル投資法人、大和PIパートナーズ、大和エナジー・インフラ、大和企業投資のAUM合計 *5 デジタル案件価値創出件数は、新しいデジタル技術を活用している案件で、かつ新規性があるもしくはビジネス変革に資する案件をカウント *6 デジタル案件トライアル件数は、DX案件とAI・データサイエンス案件のトライアル件数をカウント *7 自社の温室効果ガス排出量はScope1+Scope2の合計。投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量の対象は、電力セクターへのプロジェクトファイナンス。一部推計値を含む